

平成 19 年 7 月 22 日

文 部 科 学 省

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

国際物理オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独)科学技術振興機構を通じて、国際科学オリンピックに参加する高校生等を支援する事業を実施しておりますが、このたび、イラン・イスファハンで開催された「第38回国際物理オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

1. 受賞状況 : 金メダル2名、銀メダル2名、銅メダル1名

2. 出場者 : 5名の高校生(日本からは2回目の参加)

3. 受賞者詳細 :

金メダル	私立灘高等学校3年(兵庫県)	<small>たかくら さとる</small> 高倉 理 さん
金メダル	私立灘高等学校2年(兵庫県)	<small>むらした ゆうと</small> 村下 湧音 さん
銀メダル	私立麻布高等学校3年(東京都)	<small>ますだ けんと</small> 増田 賢人 さん
銀メダル	筑波大学附属駒場高等学校3年(東京都)	<small>もりた ゆうすけ</small> 森田 悠介 さん
銅メダル	私立大阪星光学院高等学校3年(大阪府)	<small>にしぐち だいき</small> 西口 大貴 さん

4. 参加国数/人数 : 69カ国・地域 / 326人

5. 場所 / 期間 : イラン・イスファハン
/平成 19 年 7 月 13 日 ~ 22 日 (現地時間)

6. 派遣機関 : 物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

(お問い合わせ)

文部科学省 科学技術・学術政策局基盤政策課 佐々木、北岡、坂井

電話 : 03 - 6734 - 4191 (直通)

03 - 5253 4111 (内線 3881, 4193, 3890)

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局

(日本科学技術振興財団) 谷本

電話 : 03 3212 - 8518

第38回 国際物理オリンピック (IPhO2007) イラン/イスファハン大会

開催概要

名称： 38th INTERNATIONAL PHYSICS OLYMPIAD, IPhO-2007,

会期： 2007年7月13日～7月22日 10日間

開催地/会場： イランイスラム共和国/イスファハン技術大学

Isfahan University of Technology (<http://www.iut.ac.ir/>)

参加国(参加者数)： 69カ国・地域(326名)

IPhO 2007ホームページ： <http://www.ipho2007.ir/>

日本代表選手団の主な日程

2007年 7月11日(水) 結団式・出発

7月12日(木) イラン/イスファハン着

7月14日(土) 開会式・エキスカージョン

7月15日(日) 理論問題試験・エキスカージョン

7月17日(火) 実験問題試験・フリータイム

7月21日(土) 閉会式・表彰式・フェアウェルパーティー

7月24日(火) 帰国・東京泊

7月25日(水) 文部科学省ほか帰国報告

エキスカージョンやフリータイムには開催国ならではの文化体験や施設見学、さらに各国代表選手同士の交流イベントなどが開催されます。



第38回 国際物理オリンピック IPhO2007 イラン大会 日本代表5名
左から、高倉理、西口大貴、増田賢人、村下湧音、森田悠介。(結団式にて)

日本代表選手 メダル受賞のコメント

高倉 理（金メダル）:

はじめは、メダルどころか入賞さえ難しいと思っていたのに、日本初の金メダルが獲れるなんて本当にビックリです。こんなに素晴らしい賞がとれて嬉しいです。

村下湧音（金メダル）:

今日は、自分の17歳の誕生日と日本初のゴールドメダルが同時に来て、本当に感激しています。昨年のような悔いも無く、満足しています。

村下湧音は、昨年第37回大会に続き2年連続2回目の国際大会出場

増田賢人（銀メダル）:

これまで支えてくださった先生方をはじめとする皆様に感謝したいと思います。

森田悠介（銀メダル）:

この大会に参加できましたことを嬉しく思うと同時に、その過程で支えてくださった先生方に感謝します。

西口大貴（銅メダル）:

試験を受けた後は、メダルをもらえるとは全く思っていなかったので、とても驚いています。これからも物理の勉強に励みたいと思います。

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 / IPhO 派遣委員長

日本代表選手団リーダー 原田 勲（岡山大学大学院） コメント

日本初の国際物理オリンピック金メダル獲得（2個）を、今イランで実感し、素直に喜んでいきます。日本選手全員メダル獲得は、選手団リーダーとして最も感激したことです。選手の誠実な活躍に敬意を表するとともに、彼らを支えたチャレンジ（日本国内大会）の仲間、指導の先生方、また私達日本チームを後から応援いただいた文部科学省、JST（科学技術振興機構）やJSF（日本科学技術振興財団）などの関係者に感謝致します。これからも皆様の心広いご支援を衷心よりお願いする次第です。

なお、今回日本選手が昨年の日本代表からプレゼントされて持って行った「世界地図の白地図」と「折り紙」は、他の国も選手との交流に大いに役立ち、大変に注目されておりました。

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長 北原和夫（国際基督教大学）コメント

選手はもちろんですが、役員もよく敢闘したと思います。特に翻訳には細心の注意を払い、実験器具をチェックしたうえで、実験の進め方を想像しながら訳しました。用語にも注意を払い、選手が言葉で迷うことのないようにしたつもりですが、限られた翻訳時間の中で相当な分量の文章があり、あとで採点をしながら反省することもありました。しかし、とにかく選手たちがこの大きな舞台に challenge して、成果を挙げてくれたことに感謝しています。これを機会に、更に日本の社会に「物理オリンピック」が浸透していくことを望んでいます。

国際物理オリンピック (International Physics Olympiad) について
(<http://www.jyu.fi/tdk/kastdk/olympiads/>)

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテストである。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次世代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、毎年開催されている。参加資格は、年齢が20歳未満で且つ大学などの高等教育機関に在籍していないこととされる。

各国から最大5名の選抜された代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて各国選手同士や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

国際物理オリンピックは、科学オリンピックの中でも多くの参加国・参加者を集めており、2005年のスペイン/サマランカ大会には、72の国と地域から300名以上の生徒が参加し、日本初参加となった2006年のシンガポール大会には86の国と地域(オブザーバー参加国を含めると93)から350名近い生徒の参加があった。そして、今回のイラン/イスファハン大会には69の国と地域から326名が参加した。

我が国は、昨年シンガポール大会において、銀メダル1名、銅メダル3名、入賞1名という成績をのこし、更に今年は、金メダル2名、銀メダル2名、銅メダル1名という昨年を上回るだけでなく、選手全員がメダル獲得という好成績をおさめることができた。

なお、来年の第39回国際物理オリンピックは、ベトナム・ハノイで開催される。



左は2006年シンガポール大会日本代表。中央、右は過去大会の実験問題、理論問題試験風景。

これまでの国際物理オリンピックにおける日本代表の成績

2006年 シンガポール大会(第37回大会) 日本初参加
開催期間: 平成18年7月8日~17日(開会式9日~閉会式16日)
参加国(参加者数): 86カ国・地域(350名)

日本代表の成績結果: 学年は2006年当時

疋田辰之 さん	洛南高等学校3年(京都府)	: 銀メダル
(初参加国中最高点として国際物理オリンピック会長賞も受賞)		
田中良樹 さん	麻布高等学校3年(東京都)	: 銅メダル
谷崎佑弥 さん	西南学院高等学校3年(福岡県)	: 銅メダル
野添 嵩 さん	ラ・サール高等学校3年(鹿児島県)	: 銅メダル
村下湧音 さん	灘高等学校1年(兵庫県)	: 入賞

物理チャレンジ（日本国内大会）について



物理チャレンジ2006 岡山県・閑谷 2006/7/30-8/1

「物理チャレンジ」は、20歳未満の高等教育機関入学前の青少年を対象とする全国規模の物理のコンテストで、世界物理年を記念して2005年8月に第1回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2005」が開催され、以後毎年開催している。

「物理チャレンジ」は、「第1チャレンジ」と「第2チャレンジ」から構成される。

第1チャレンジにおいて参加者は、全国一斉に実施される「理論問題コンテスト」と自宅や学校で取り組む「実験課題レポート」にチャレンジする。

第2チャレンジは、第1チャレンジにより選抜された100名が夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式によるコンテストとなっており、この中で参加者は理論問題コンテストと実験問題コンテストにそれぞれ5時間ずつチャレンジする。第2チャレンジの成績最上位6名に金賞、続く12名に銀賞、さらに続く12名に銅賞、そのほか優良賞、奨励賞を授与する。

第2チャレンジの期間中には、コンテストばかりでなく第一線研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と大会委員（物理学研究者）との語らいを深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となるよう構成している。

また、「物理チャレンジ」は、国際物理オリンピックに派遣する日本代表選手の選考を兼ねている。第2チャレンジでとくに優秀な実力を示し、かつ翌年の国際物理オリンピックへの参加資格を満たす若者には、日本代表候補者としてさらに合宿研修や添削問題などのトレーニングと最終選考に参加してもらい、うち5名を選抜して日本代表選手として国際物理オリンピックに派遣する。

なお、第2チャレンジの合宿形式のプログラムは、「国際物理オリンピック」のスタイルに準じている。

今回イラン大会（IPhO2007）に派遣した日本代表選手5名は、昨年夏に行なわれた「第2回全国物理コンテスト『物理チャレンジ2006』」において優秀な成績をおさめ、日本代表候補者となり、続いて昨秋より6ヶ月間にわたり継続して行われた「理論問題通信添削」、冬休みに行われた「実験実習合宿」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

物理チャレンジ2007の開催について

開催概要

- 主催：物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
共催：筑波大学、日本物理学会、応用物理学会、日本物理教育学会、日本生物物理学会、電気学会、日本機械学会、茨城県、茨城県教育委員会、つくば市、つくば科学万博記念財団、筑波研究学園都市交流協議会、筑波研修センター、茨城大学、東京工科大学、岡山県、岡山光量子科学研究所、岡山大学、理化学研究所、日本科学技術振興財団
特別協賛：科学技術振興機構
協賛：東京電力、東レ、日立製作所、NTT、東芝、松下電器産業、三菱重工業、アジレント・テクノロジー、Z会、筑波大学同窓会（茗溪会）
協力：宇宙航空研究開発機構、高エネルギー加速器研究機構、産業技術総合研究所、日本原子力研究開発機構、J-PARC センター、岩波書店、シュプリンガー・ジャパン、丸善 はるやま商事
後援：文部科学省、朝日新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、NHK

開催日程

<第1チャレンジ>

- | | | |
|-------|----------|----------------------|
| 2007年 | 3月 | 参加募集要項およびポスターの配布 |
| | 4月1日(日) | 参加申込受け付け開始予定 |
| | 4月20日(金) | 参加申込締め切り |
| | 6月4日(月) | 実験課題レポート提出締め切り |
| | 6月10日(日) | 理論問題コンテスト(全国51会場で実施) |

<第2チャレンジ>

- | | |
|--------|------------------------------|
| 会期： | 2007年7月29日(日)~8月1日(水)3泊4日 |
| 会場： | 筑波大学及び筑波研究学園都市ほか茨城県内諸施設 |
| プログラム： | 第1日 開会式 講演会 |
| | 第2日 理論問題コンテスト(5時間)
交流イベント |
| | 第3日 実験問題コンテスト(5時間)
研究施設見学 |
| | 第4日 表彰式 閉会式 |

第2チャレンジは、第1チャレンジにより選抜された100名が参加。

物理チャレンジホームページ <http://www.phys-challenge.jp/>

本参考資料に関するお問い合わせ先

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 事務局 担当：谷本、清田
東京都千代田区北の丸公園2-1 財団法人日本科学技術振興財団 内
TEL：03-3212-8518 E-Mail physchal@jsf.or.jp
FAX：03-3212-7790 ホームページ <http://www.phys-challenge.jp>